

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 26 日現在

機関番号：32645

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25360049

研究課題名(和文) 女性医師がキャリアを形成するために必要な要素とは何か？

研究課題名(英文) Elucidate conditions for female doctors to make their carriers

研究代表者

泉 美貴 (Izumi, Miki)

東京医科大学・医学部・教授

研究者番号：30228655

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：医科大学の准教授と教授の女性医師20名に、キャリアを形成できた理由をインタビューした。自己効力感や教育を社会に還元する意識が高いこと、能力開発を怠らないこと、性的役割分担意識に囚われないことなどが挙げられた。困難に際しては、楽天的に臨み、ソーシャルサポートを活用してフレキシブルに対処し、結果へのこだわりは少なかった。女性医師は、「プロフェッショナリズムの意識が高い」ことと、「困難への対処法が優れている」ことがキャリアの形成に必要なであると結論付けた。

研究成果の概要(英文)：We interviewed the reason that was able to make a carrier to 20 female doctors of an associate professor and the professor of the Japanese Medical University. Having a strong consciousness to return their education to the society, self-confidence, continuous professional development and no consciousness of sexual role allotment were emphasized. On the occasion of difficulty, being optimistic and flexible, utilizing social supports, and not much to be concerned with the results. We concluded that to make a successful carrier for the female doctors are "to have a strong consciousness of the professionalism" and "coping with the difficulties were necessary disposition."

研究分野：医学教育学

キーワード：女性医師 キャリア 離職 プロフェッショナリズム 性的役割分担 ガラスの天井 復職 ワーク・ライフバランス

1. 研究開始当初の背景

本邦では、勤務医の過重労働による「医療崩壊」が進んでいる。その一方で、近年増加している女性医師が、キャリアの早期にドロップアウトしている。前回、私立医科大学2校のすべての女性卒業生に対するアンケート調査(1423名中、711名回答、有効回答率50%)により、現在女性医師の約55%が離職しており、生涯においては73%もが離職した経験を有していたことを突きとめた。離職はその86%が医学部を卒業後10年以内に生じ、離職した理由は、妊娠・出産、育児、労働条件の順であった。特に子供がいる女性医師はその77%が離職しており、妊娠・出産および育児における仕事との両立の困難さが浮き彫りとなった。離職の原因として、労働時間よりも当直や家事の負担が直結していた。専門科では、離職率が高いのは、小児科、精神科、皮膚科、耳鼻科、内科、眼科の順であった。復職したのはわずか33%に留まり、一旦離職すると復職の難しさが判った。しかし、職業意識を尋ねたところ、「子供があっても職業を継続すべき」と答えたのは、常勤医、離職した医師ともに高率(それぞれ84%、86%)で、離職は本意な選択であることが示された。一方、常勤を継続できた女性医師の多くは、開業という自分で労働形態や時間を選択することができるライフスタイルを選んでいった。医科大学・大学医学部附属病院に勤務する女性医師のうち、教授職はいなかった。

2. 研究の目的

前回の研究では、少数ながらキャリアを形成できた女性医師が存在していた。この人材に共通する資質、経験、および困難に直面した際の対処法などの中には、一般化できる共通要素が存在するはずである。本研究では、これらのキャリアの継続を可能とする素因を抽出し、医学生や若い女性医師に教育することにより、多くの女性医師が現実的にキャリアを継続できるようになることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 本邦の医科大学や大学附属病院において、講師以上あるいは病院において科長以上の職掌にある人材を、「キャリアを形成できた女性医師」と定義し、その経験を、1:1の半構造化面接において集積した。

(2) 質問内容は以下の14項目である：

1. 回答者の属性
2. キャリア形成の過程で生じた仕事上の困難
3. 困難への対処法
4. 私生活における困難
5. 困難への対処法
6. キャリアを継続できた最大の理由
7. 内面的要素に関する情報
8. 将来希望するキャリア
9. キャリア形成に成功している女性に共通

している要

10. キャリア形成が難しい女性医師に共通している要素

11. ガラスの天井についての認識や経験
12. ワーク・ライフバランスに関する認識
13. 後進へのアドバイス
14. 自由記載

対象者の基本情報は、質問紙に記入欄を設け、情報を入手した：年齢、婚姻状況、子供の有無、人数、年齢、性別、勤務地、勤務する施設、勤務形態。

(3) データをグラウンデッド・セオリーにより解析し、キャリアの継続に必要な資質、経験、認知および行動パターンを導き出した。

4. 研究成果

(1) 20名の教授および准教授の職にある女性医師にインタビューを実施した。平均年齢52.8才(41~60才)、既婚16、未婚3、離婚1、13名は子供があり、介護中の対象者は6名だった。

(2) 概念の例には「好きな道を選んだ」、「苦労したと感じていない」、「ある時期は懸命に働いた」、「指導者に鍛えられた」、「同僚や上司に恵まれた」、「伴侶や家族がキャリアの継続に理解があった」、「家事や子育てを誰かに協力してもらった」などが挙げられた。

(3) カテゴリーとしては、「プロフェッショナルリズムに関する意識が高い」とこと、「困難への対処法が優れている」とことなどが挙げられた。プロフェッショナルリズムには、自己効力感や教育を社会に還元するという意識が高いこと、能力開発を怠らないこと、性的役割分担意識に囚われないことなどが含まれた。困難に際しては、楽天的に臨み、ソーシャルサポートを活用してフレキシブルに対処し、結果へのこだわりは少なかった。

(4) 医科大学においてキャリアを継続している女性医師達の、一般化できる資質や行動パターンが明らかとなった。これらを専門である卒前教育を通じて医学生のうちに教育することにより、(男女を問わず)医師のキャリア継続を支援できると考えた。

(5) 今後は本研究を、有馬牧子氏(研究代表者、東京医科歯科大学)「男女共同参画の視点を持つ医師を育成するキャリア教育プログラムの開発と効果の検証」の分担研究者として、平成29年度から3か年間、科学研究費助成事業費(基盤C)を得て継続する。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

泉美貴、米国の医学部において女性医師は男性医師に比べ教授職を得にくい。毎日メディカルジャーナル、Vol. 12, 2016, 159-160, 査読なし
泉美貴、医師には必死で学ぶ“時期”が

ある, KOKUTAI, 2014, 7-9, 査読なし
泉 美貴, 米国でも色濃く残る「家事は女性」という固定観念, 毎日メディカルジャーナル(MMJ), Vol.10, 2014, 208-209, 査読なし
Izumi M, Nomura K, Higaki Y, Akaishi Y, Seki M, Kobayashi S, Komoda T and Otaki J. Gender role stereotype and poor working condition pose obstacles for female doctors to stay in full-time employment: Alumnae survey from two private medical schools in Japan. vol. 229, 2013, 233-237 査読有

〔学会発表〕(計 3 件)

泉 美貴, キャリアを形成した 20 人の女性医師へのインタビュー調査(第 2 報) ~ 成功に必要な要素とは何か ~, 第 47 回日本医学教育学会大会, 2015.7.24, 朱鷺メッセ(新潟県新潟市)
泉 美貴, キャリア形成を達成した女性医師へのインタビュー調査 ~ 成功に必要な要素とは何か ~, 第 46 回日本医学教育学会大会, 2014.7.18, 和歌山県立医科大学(和歌山県伊都郡)
泉 美貴, 21 世紀のキャリア教育 ~ 諦めない, 辞めないキャリアを求めて ~, 第 52 回医学教育セミナーとワークショップ in 秋田, 2014.5.25, 秋田大学医学部本道キャンパス(秋田県秋田市)

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0 件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

<セミナー・FD・研究会など>
・泉 美貴, 日本女医会主催, 第 10 回「医学を志す女性のためのキャリア・シンポジウム」パネリスト, 平成 28 年 10 月 30 日, 持田製

薬本社(東京都新宿区)

・泉 美貴, 女性医師, 結婚, 子育て, どんとこい, 神戸大学 D & M plus プラッシュアップセンター, なでしこ女性医師養成コースシンポジウム, 平成 27 年 2 月 20 日, ホテルオークラ神戸(兵庫県神戸市)
・泉 美貴, キャリア, 子育て, どんとこい! 平成 27 年 4 月 18 日, 川崎医科大学同窓会, フォーシーズンズホテル丸の内(東京都千代田区)
・泉 美貴, 「病理医という仕事 - 病理女子の生きる道 - 」, 第 16 回病理夏の学校(日本病理学会中国四国支部開催), 平成 27 年 8 月 23 日, 佳翠苑 皆美(島根県松江市)
・泉 美貴, 医師のワーク・ライフバランスを考える, WLB for joy, 平成 26 年 1 月 26 日, 熊本大学医学部(熊本県熊本市)
・泉 美貴, 女性研究者として一流の仕事をするために, 順天堂大学女性研究者支援室キャリアアップランチョンセミナー, 平成 26 年 2 月 6 日, 順天堂大学医学部(東京都, 文京区)
・泉 美貴, 優秀な医師になるコツ, 京都府立医科大学トリアス祭講演会, 平成 26 年 12 月 11 日, 京都府立医科大学(京都府京都市)
・泉 美貴, 医師として成功するためには - 泉の法則 -, 医師のワーク・ライフバランスを考える勉強会(SCOME, IFMSA-JAPAM), 平成 26 年 12 月 13 日, 東京医科大学医学部看護学科(東京都新宿区)
・泉 美貴, 女性医師として成功する 3 つの秘訣, 秋田県医師会医学生, 研修医をサポートする会, 平成 25 年 9 月 28 日, 秋田ビューホテル(秋田県秋田市)
・泉 美貴, みんなで考えよう女性医師の人生のワーク・ライフバランス, 平成 25 年 8 月 10 日, GSKIN Orange Rose Seminar in Okayama, 岡山プラザホテル(岡山県岡山市)
<ホームページ>
京都府立医科大学男女共同参画センター, 女性研究者支援, キャリアモデルインタビュー
<http://www.kpu-m.ac.jp/j/miyakomodel/support/career.html>
東京女子医科大学 男女共同参画局, 教育・学修支援プログラム. 優秀な医師になる方法教えます ~ 結婚, 子育てドンと来い ~
<http://www.netlearning.co.jp/clients/TWMU/top.aspx>
日本女医会, 提言論文, 優秀賞
優秀な医師になるコツ 3 つ
<http://jmwa.or.jp/teigen/post-186.html>
第 29 回日本医学会総会 2015 関西, ISOUKAI x 女性研究者. 優秀な医師になる方法教えます! 泉美貴
その 1
<https://www.youtube.com/watch?v=uAoyhk3Mjes>

その2：
<https://www.youtube.com/watch?v=WYVV6c5aCTU>
その3：
<https://www.youtube.com/watch?v=on-0JzST0Sw>

<学内外での授業および実習>

【平成28年度】

- ・平成28年4月1日 東京医科大学医学部(以下本学部)医学科第1学年, 症候学入門「医師としての将来像」,「学生生活, 医学教育」,「卒後臨床研修」,「医師のキャリア継続」
 - ・平成28年4月26日, 京都府立医科大学大学医学部医学科「医師として成功するコツはたった3つ」
 - ・平成28年6月20日, 本学部医学科第3学年,「医師としてキャリアパスについて」,「キャリアパスについて考える(実習)」
 - ・平成28年9月13日, 本学部医学科第2学年, 医療プロフェッショナルリズム「医師としてのキャリアについて考える」
 - ・平成28年10月7日, 島根大学医学部医学科第3学年,「医師として成功するコツ」
 - ・平成28年10月13日, 本学部看護科第1学年,「医療職として成功する3つのコツ教えます!」
 - ・平成28年11月25日, 本学部研究科医科学専攻(修士課程),「キャリアパスの教育, 医師の労働環境」
 - ・平成28年12月2日, 本学部研究科医科学専攻(修士課程),「医学教育の中での社会調査」
 - ・平成29年1月21日, 本学部医学科第5学年,BSL 統合講義「プロフェッショナルリズム」
- 【平成27年度】
- ・平成27年4月16日, 本学部医学科第1学年, 症候学入門,「医師としての将来像」,「学生生活, 医学教育」,「卒後臨床研修」,「医師のキャリア継続」
 - ・平成27年4月28日, 京都府立医科大学医学部医学科第4学年, 医師としてのキャリア支援,「医師として成功するコツは、たったの3つ!」
 - ・平成27年5月8日, 山形大学医学部医学科第4学年,「医師として成功するコツ, 結婚のコツまで」
 - ・平成27年9月15日, 本学部医学科第3学年, 医療プロフェッショナルリズム,「医師としてのキャリアについて考える」
 - ・平成27年11月27日, 本学部研究科(修士課程), 医学教育学特論,「キャリアパスの教育・医師の労働環境」
 - ・平成28年2月4日, 岡山大学医学部医学科第3学年,「医師として成功するコツ, 結婚のコツ」
- 【平成26年度】
- ・平成26年4月17日, 本学部医学科第1学年, 症候学入門,「医師としての将来像」
 - ・平成26年5月23日, 山形大学医学部医学

科第4学年,「医師として成功するコツ, 結婚のコツまで」

・平成26年6月30日~7月18日, 本学部医学科第3学年, グループ別自主研究,「医師としてのキャリア形成におけるモデルを探る」(実習)

【平成25年度】

- ・平成25年4月6日, 本学部医学科第5学年, 5年生BSL 統合講義,「医師として成功するコツ教えます」
- ・平成25年4月9日, 本学部医学科第1学年, 医学入門,「医師としての将来像」
- ・平成25年9月19日, 島根大学医学部医学科第3学年,「医師として成功するコツ」
- ・平成25年10月3日, 本学部看護科第1学年,「看護師として成功するコツは、たった3つ」
- ・平成25年11月13日, 本学部医学科第1学年, 医学教育学,「医師としての将来像」

6. 研究組織

(1)研究代表者

泉 美貴 (IZUMI, Miki)
東京医科大学・医学部・教授
研究者番号: 30228655

(2)研究分担者

檜垣 祐子 (HIGAKI, Yuko)
東京女子医科大学・医学部・教授
研究者番号: 80189745

小林 志津子 (KOBAYASHI, Shizuko)
東京医科大学・医学部・兼任講師
研究者番号: 20569602

(3)連携研究者

()

研究者番号:

(4)研究協力者

()